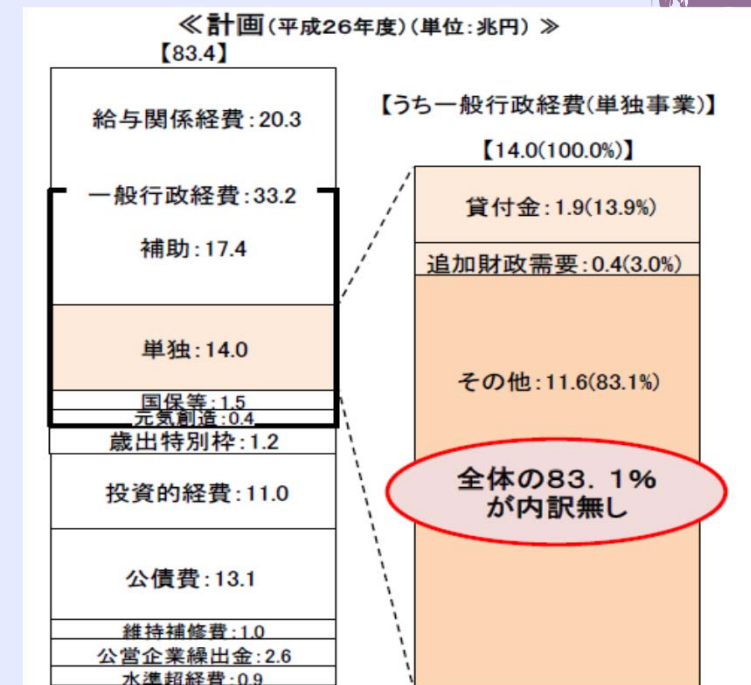
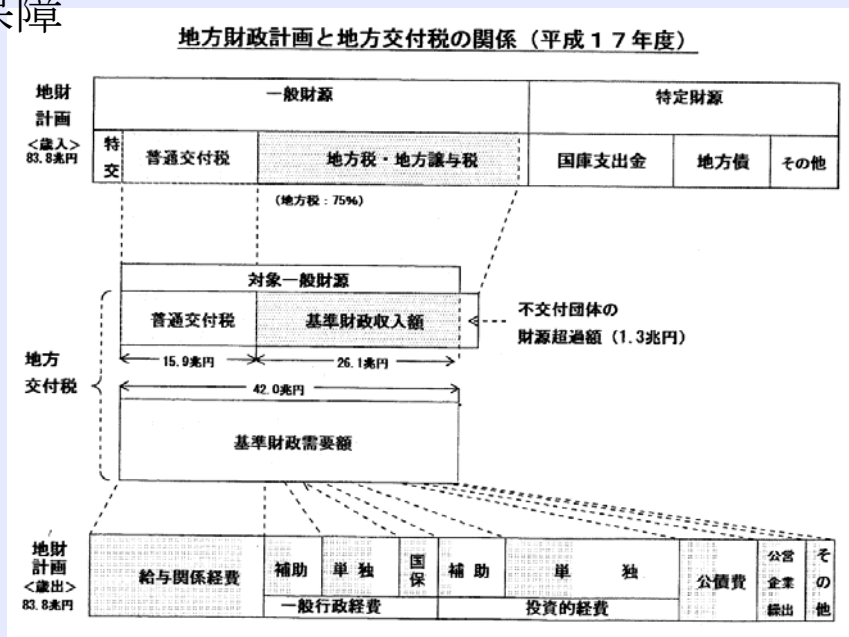


## 論点2: 繋がらないマクロとミクロ

- ◆ マクロ＝地方財政計画上の経費とミクロ＝基準財政需要の対応関係が不明瞭
- 例: 地方単独事業
  - ✓ 基準財政需要に地方単独、補助事業の区別がない
  - ✓ 基準財政需要≠単独事業

⇒トップランナー方式で個別の基準財政需要額が圧縮できても、地財計画上の単独事業等の経費にどのように反映されるか分からない

### マーブルケーキ状 の財源保障



出所: 財務省資料(2014年11月)

## 論点3: コウモリな交付税

- ◆ 財源保障としての交付税＝国(財務省)
  - 効率化による歳出減分だけ財源保障は不要
  - ✓ 例: トップランナー方式
- ◆ 一般補助金としての交付税＝地方自治体(?)
  - 一分野(例: 窓口業務)による経費削減分は他の用途の充当可
  - 現実の交付税＝補助金化(政策誘導あり)例: 「人口減少等特別対策事業費」

	交付税の役割	交付税の用途
予算 ベース	国(＝地方財政計画)が決めた政策・事業を着実に実施するための財源保障	財源保障＝基準財政需要に即すべき
決算 ベース	地方の裁量・主体性を重視した一般補助金(財源)	使途は地方の自由に委ねるべき



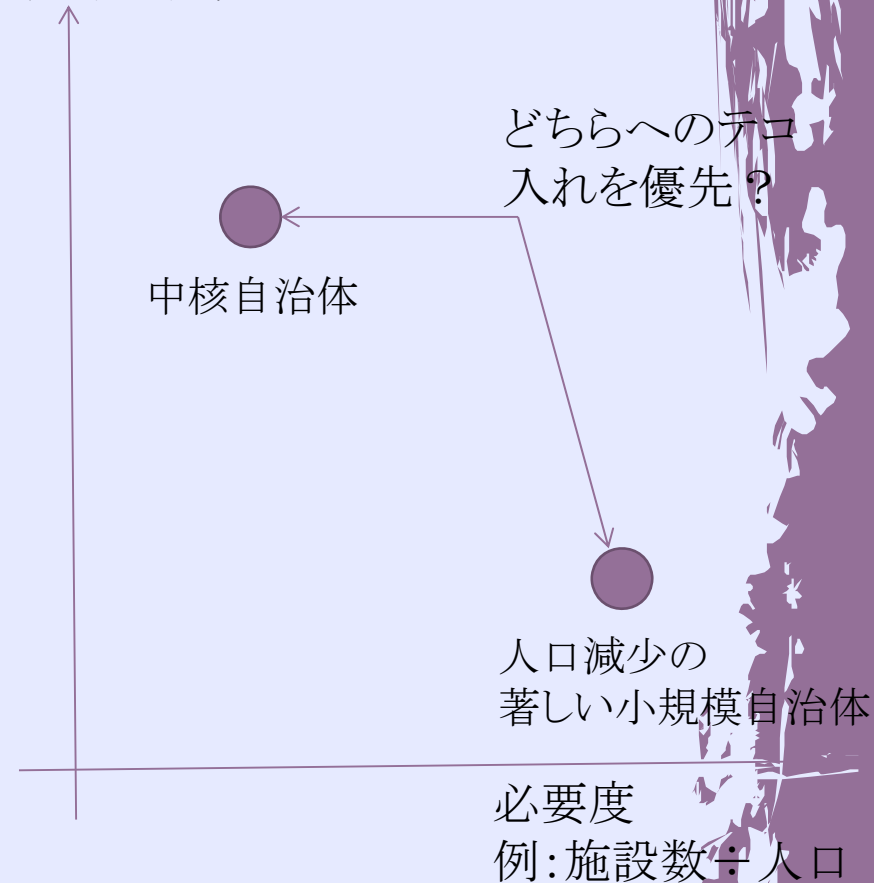
- 計画と決算のかい離  
例: 地方単独(投資的経費)、臨時財政対策債元利償還費

## 論点4:進捗状況にバラツキ

- ◆ 自治体間で進捗状況にバラツキが出る
- ✓ 例:公共施設等総合管理計画による施設の集約化、窓口業務の民間委託等
- マクロ指標=KPIの達成に向けて、ミクロ=個別自治体にどのように働きかける(テコ入れする)か?
- 量=歳出効果(例:大規模施設を抱えた自治体)か質=必要度(例:人口に比して施設数の多い自治体)か?
- ✓ (広域化・共同化で)都道府県の役割は?
- バラツキの「見える化」をどのように生かすか?
- 住民に公表して、どのように「コスト意識」を喚起するか?
- ✓ 財政責任の欠如=負担を伴わないコストは意識しない・・・
- ✓ 現行=財政責任を伴わない地方自治
- ◆ コスト意識を喚起するシステムは?

歳出効果

例:集約化で見込める  
歳出削減額



# ではどうするか？

- ◆ 個々の取り組み(例:トップランナー方式)の成果と地財計画の連動の確保

改革の成果＝歳出効果の一部を成果に応じて自治体間で配分

歳出効果は(自治体ごとではなく)マクロOR類似自治体平均を反映

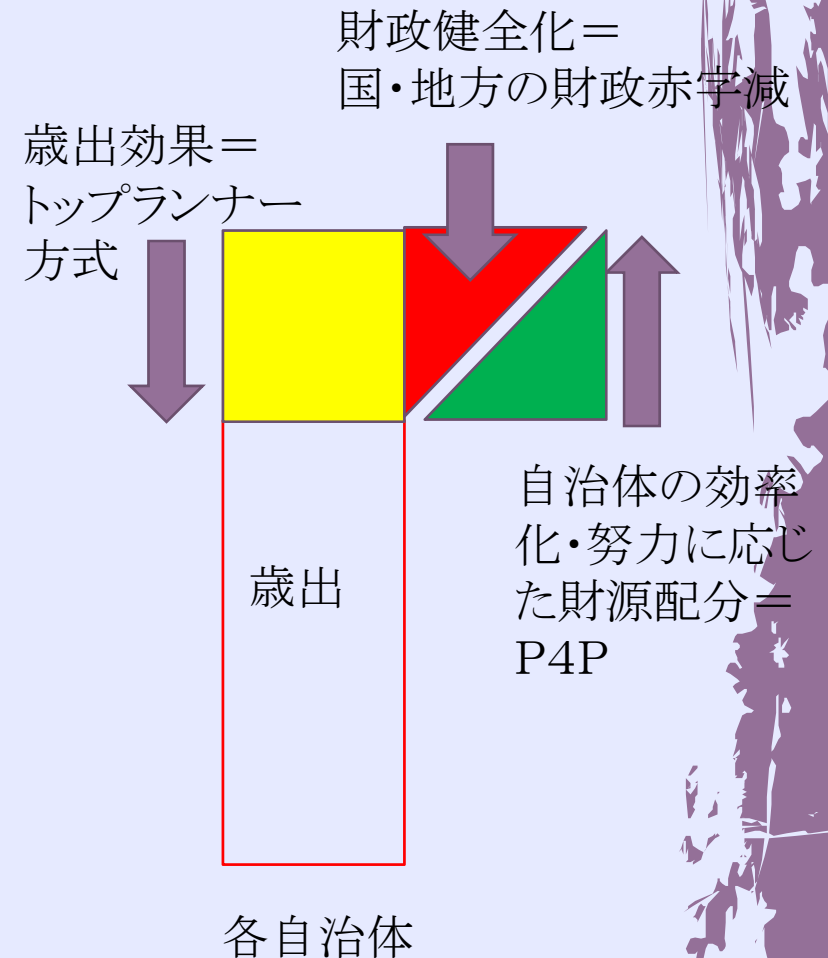
ヤードスティック＝ベンチマークの設定

P4P＝「人口減少等特別対策事業費・取組の成果」に上乗せ

⇒自治体の新たな財政需要等に充当

- ✓ 交付税の性格に反するならば新たな交付金を創設(例:地方創生交付金?)

- ◆ 課題
  - **不交付団体**の歳出効果はどのように反映？
  - 支出実績<基準財政需要となっている自治体では基準財政需要減＝トップランナー方式は既に**転用している他経費を圧縮**



## ではどうするか？(その2)

- ◆ 単独で施設等の統廃合、行革が難しい自治体に対しては都道府県が近隣自治体との広域化(例:施設の集約化と共同可利用)を促進
- ✓ 定住自立圏構想の推進
- ✓ 民間委託・PPPのノウハウ(経験)のある人材(職員・コンサル等)の斡旋
- 行政の広域化・連携
  
- ◆ 成功事例の分析と類似団体への推奨＝横展開の積極化
- ◆ 合意形成の促進＝コストの他、施設利用率等、成果の公表
- ◆ 公共施設等総合管理計画などの実施が遅延している自治体に報告義務
  
- ◆ 公共施設等の使用料金に運営コストを反映
- ✓ 損失補てん的な一般会計(法定外)繰出金の縮減
  
- ◆ 歳出効果が出ない(施設の集約化が進まない等)結果、支出が高止まりしている分は交付税(による継続支援)ではなく自主財源で負担する旨の徹底
- ✓ トップランナー方式＝交付税(基準財政需要)は全てOR類似自治体の歳出効果を前提に算定

## ではどうするか？(その3)

- ◆ ボトムアップの改革＝当事者(自治体等)の総意工夫と主体性が必須  
⇒自治体に改革への誘因はあるのか？
- ◆ ごね得をしないシステムの構築
  - トップランナー方式＋P4P(成果による配分)
- ◆ 改革派首長への支援＋地方議会对策
  - 既得権益の壁＝PFI等民間資金・経営力の活用が(生産性・競争力に乏しい)地元企業への配慮から進まない
  - 意識の壁＝財政コストを自らが負うという意識が住民にない  
⇒自治を理由にした改革の遅延＝財政責任を伴わない地方自治の帰結
- ◆ 自治体間で歳出・歳入改革競争の促進
  - ✓ 見える化とヤードスティック(パフォーマンス)競争  
⇒バンドワゴン(雪崩)効果に期待？
  - ボトムアップの改革＝合意形成は難しいが、合意されれば改革に持続力を与える